

コンビネーション治療における ボツリヌス製剤の位置づけ

当山美容形成外科は、「形成外科」という標榜科がまだ一般的ではない時代に沖縄で開設され、67年の長きにわたって患者さんに寄り添ってきた。美容医療に力を入れ、多くの患者さんの診療を手掛けてきた本医院においても、近年各種フィラーの登場により診療内容が大きく変化しているという。今回は院長の當山拓也先生に、とくに美容医療におけるボツリヌス製剤の位置づけと、さらなる可能性についてお話をうかがった。

當山拓也 先生
当山美容形成外科院長



美容医療における ボツリヌス製剤の現状

—美容医療でのシワの改善を目的とした施術の現状について教えてください。

当院では、シワに対する施術として、ボツリヌス製剤、ヒアルロン酸製材、糸(スレッドリフト)、手術などの施術を行っていますが、圧倒的に頻度が高いのはボツリヌス製剤です。当院でも、この10年で外科的治療が1/10程度に減少し、ボツリヌス製剤をはじめとするフィラー注入に置き換わってきています。現に、注入治療と外科的治療の比率をみてもおよそ9対1と、圧倒的に注入治療が多い状況です。

昔の美容医療は、長年悩んだ末に「人目を避けながらこっそり受ける特別なもの」というイメージだったと思います。それが近年、患者さんにとって手軽な施術が増え、美容医療に対する関心や認知が高まったことで一気に裾野が広がりました。ボツリヌス製剤について一定の知識をもつ方も増えており、美容医療へのハードルは下がったと感じています。

—美容医療におけるボツリヌス製剤の位置づけ、特徴についてどのようにお考えでしょうか。

シワに対するボツリヌス製剤注入で最も希望が多いのは眉間で、目尻、前額部が続きます。短時間で施術が済み、他の治療に比べて価格が安い、かつ効果も実感しやすいという点で、美容医療の初心者に適しています。また、注入量と部位を間違えなければ大きなトラブルは生じにくいので、これから美容医療に取り組みたい、あるいは美容の診療項目を増やしていきたいとお考えの皮膚科の先生方にも、初めに取り入れていただくと十分な価値を感じられるものではないかと思えます。

施術にあたっては、まず患者さんの表情やくせ、日常生活などを把握することがアセスメントのポイントです。また、眼の動きや筋肉の動き、それに伴う表情は個体差がありますから、解剖学に基づいた検討を行い、最大限の効果を引き出さなくてははいけません。適切な部位に適正な量を注入できるよう講習会などで学び、そして実践を積むことが大切です。患者さんの望んだ効果を出すこ

とができるようになると満足度は大いに向上します。

患者さんの受診継続を 目指した診療のコツ

—美容医療に関心のある患者さんに、リピーターになってもらうためのコツはありますか。

ボツリヌス製剤に限ってお話すると、本製剤の注入は、1度満足していただければかなり高い確率で継続していただける施術だと思います。ただ、ボツリヌス製剤の注入だけで継続して通院していただくことは難しいと感じます。たとえば、患者さんの自宅近くに美容医療系クリニックが新規開業したり、より低価格で提供するクリニックを見つけたりすれば、クリニックを変更する十分な誘因となり得るでしょう。患者さんにリピートしていただくためには、プラスαの提案が必要なのです。

そこでカギとなるのが、ボツリヌス製剤を主軸とするコンビネーション治療です。当院で行うコンビネーション治療として圧倒的に多いのは、高周波・超音波治療を組み合わせ